

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700026		
法人名	有限会社 めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホーム 中野方めぐみ		
所在地	岐阜県恵那市中野方町3564番地3		
自己評価作成日	平成21年8月31日	評価結果市町村受理日	平成22年1月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191700026&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笠置山の下に広がる、田園の中に位置し、広い庭と木造の落ち着いた広い室内の中で、毎日季節感を感じながらゆったり、のんびり、自然の中にとけこんで、過ごしていただく事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の中にすっきりと取まった環境の中で、「共豊」という理念(利用者は職員からサービスを受けて、職員は利用者から教えを受けて、共に、豊かな生活が出来ることを目指す)をにかけて、田舎の特性を活かした介護を実践しているホームである。職員は、常に笑顔を絶やさず、利用者を敬合い、スキンシップを大切に、利用者をよく理解することに努めながら、生活にリズムを作って、毎日を楽しんでもらえるよう努力している。この結果、利用者一人ひとりがいきいきと生活を楽しんでいるホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は理念を共有し、その人らしくいきがいをもちながら暮らせるように、常に考え実践につなげている。</p>	<p>職員は理念に沿って、利用者に対する尊厳を忘れることなく、笑顔を絶やさず、利用者が分かりやすい言葉で会話する、等に気をつけながら介護を実践している。ただ、地域との関りを織り込んだ理念も欲しい。</p>	<p>現在の理念に加えて、地域密着型サービスの意義をふまえた、理念の見直しを期待したい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に組み入りし、行事等には積極的に参加交流し、あいさつや会話等に努めている。</p>	<p>地域で催される行事や清掃作業等に参加している。子供への声かけも積極的に行い、学校の福祉実習にも協力している。将来は、地域の一人暮らしの人達のサロンにもなることを目指している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症についての講演を行うなどして、認知症の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議ではサービスの取り組み等を報告し、会議より出された意見は、サービス向上に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催され、ホームの介護の現状や講習を受けた内容の報告が主なテーマとして実施されてきた。今後は、地域の住民に、ホームの行事への参加を呼びかけたいと考えている。</p>	<p>2ヶ月に1回の会議の中で、ホームの年度計画を説明し、地域の協力が得られるよう推進されることを期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村とは必要に応じて事業所の実情等を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市とは、運営推進会議の中で、ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えながらの連携に止まっている。高齢化が進む地域の中で、ホームの役割について、市との連携が今後の課題だと考えている。</p>	<p>ホームの力量が活かせるよう、地域が必要とする認知症とそのケアに関する相談や、地域で支える認知症サポートの養成講座の開催等を、市と相談されることを期待したい。</p>
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>代表者及びすべての職員は身体拘束をしないケアを理解し、それに取り組んでいる。</p>	<p>ホームは、身体拘束をしない介護を進める方針である。職員は身体拘束についての研修を受け、対象となるような利用者の入居に備えている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全員が身体拘束を十分に理解し、拘束の無いケアに取り組んでおり、講習等・ミーティングで学べるようにしている。</p>		

グループホーム 中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・講演等には積極的に参加し、情報を共有して活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は、十分な説明をおこなった上で、不安や疑問・質問等には、納得がいくまで丁寧に説明をして理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見や要望等は、来訪・面会時等に機会を設け、また利用者は日常的に表せる機会を設け、それを運営に反映させている。	利用者の家族には、半年に一度、アンケート調査を実施し、要望や苦情を収集し、結果をミーティングで対応している。家族の訪問の際には、積極的に要望を聞きだしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングはもちろん日常の中での提案や意見を聞いて必要に応じて話し合いの場を設け反映させている。	職員には、意見・要望を申し送りノートへ記載するよう声かけしている。職員は、ミーティングの場で気軽に意見・要望を述べている。その他に、不定期の管理者との面談の機会も設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況の把握、職員個々と定期的に面談をしながら、誰もが向上心を持って働けるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講演等に積極的に参加し、それらの情報を共有しながら、段階に応じた育成に努め、働きながらそれらを活かせるトレーニングを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの東濃支部会への参加、研修会等に積極的に参加して、他ホームからの意見や情報等を参考にして、向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人自身の話しやすい場所で、話を聞く機会をつくり、不安や困ったことを素早く察知しそれらを取り除くことで、信頼関係を築くよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初期段階に家族とじっくり話し合い、不安や求めていることを、十分に理解して、信頼関係を築くように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>健康診断やサマリー等も含めて、まず必要としている支援を見極めた対応に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の中で、人生の先輩であるという尊厳をもち、喜怒哀楽をいつも共にして、職員も人生の先輩に学び、お互いに支えあいながら、暮らしを共にする同士の関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の小さな変化も必ず電話連絡するか、面会に来ていただき、家族・職員一緒に、本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人の気持ちを大切にして、友人等の面会・外出等の支援をしている。</p>	<p>職員は、地域の敬老会への参加や、昔の馴染みの場所・見たい景色の要望が出たり、聞きだしたりした場合は、その要望に応え、外出支援をしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりが孤立しないよう支援している。利用者同士がコミュニケーションを取れるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者・家族が必要としている限り、断ち切らないように、関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向の把握に努め、その人らしい暮らしができるよう支援に努めている。	職員は、利用者毎のノートを作成し、利用者には色々な話しかけをして、意向の把握に努め、気付いたことと一緒に記録している。このノートは職員がいつでも見れるようにして、本人本位の支援ができるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から、くわしく今までの生活やサービスの利用状況を聞き、利用者が今までと変わりなく生活できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・職員日誌・夜間記録・業務終了報告書・申し送りノート・個別ノートで、全員が把握している。また有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・その他関係者と話し合いながら、それぞれの意見やアイデアを取り入れ、本人がより良く暮らすための介護計画を立てるよう努めている。	職員全員参加の、利用者別に行われるサービス検討会の結果は、個人別ノートにまとめられ、それを基に、介護計画を作成している。計画をモニタリングして、結果を評価している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・個別記録ノート・夜間記録・職員日誌等で情報を共有し、介護計画等の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や状況に応じて、柔軟に対応できる支援に取り組んでいる。		

グループホーム 中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や必要に応じて、地域のイベントの見学やボランティアの受け入れをし、支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師による、月2回の往診がある。体調の変化があれば、随時報告・連絡し、対応の指示等を受け、診察のための支援をしている。	協力医の往診は、月2回受けられるようになっている。歯科、耳鼻咽喉科、泌尿器科等の受診支援も受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談したり、かかりつけ医の看護師に相談し、主治医との関係を密にしながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者が安心して過ごせるように、職員が定期的に面会に行き、洗濯物・物流補給等をし、医療機関からの情報を全職員が把握して、本人・家族の不安を取り除き、早期退院に向けて連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については方針を共有している。更なる医療機関や家族等との連携を強化して、職員の統一した支援形態で細やかな支援をしている。終末ケアについては医療機関の対応を基本としている。実際には終末ケアに近い支援であるケースもある。	重度化した場合や終末期の介護は、家族や医師と相談して、ホームの力量で可能な限り対応したいと考えている。終末期医療についても家族と話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成して、全職員が対応できるように、わかりやすい場所に提示している。緊急時の対応やAEDの対応についてはミーティング等で訓練をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の人との協力を得られるように働きかけている。職員は避難訓練を行い、利用者が安全に避難できるように努めている。	防災訓練は、地域の防災訓練に参加して年2回実施している。夜間対応の訓練や災害に対する対策は、今後の検討課題としている。	運営推進会議等を活用して、夜間防災訓練や災害対策の検討を進めていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけをするように、職員は十分に注意をして対応している。また、記録等の扱いも注意している。不適切な言葉使いのときは、別の場所でその都度、お互い注意している。	利用者には、個人の誇りを大切にしたい役割をお願いしている。職員は、利用者への言葉かけにも注意し、一人ひとりを尊重する介護に留意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人ができるだけ、決定できるように、働きかけたり、力に合わせた説明で納得していただけるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、介護側の都合にならないように、希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや化粧やおしゃれは本人の希望を優先して、美容院等は本人の望むところにいけるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物の希望を聞きながら、取り入れたり、体調や力に合わせて、準備や片付けを職員と楽しみながら一緒に行っている。季節料理や郷土料理を取り入れ、食事が楽しみになるよう支援している。	利用者の能力に合わせて、食材の準備、味付け、下膳、食器洗いを担当してもらっている。職員は、食事中は季節の食材を話題にして、会話をはずませながら、楽しい食事の雰囲気作りをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に応じて、食事の量や栄養バランス・水分量は確保できるように把握し、注意を払い、支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きをしていただくように働きかけ、自立できない方は、口腔ケアで対応している。口腔ケアの講習に参加して、誤嚥性肺炎等の予防に努めている。		

グループホーム 中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを職員が把握し、できるだけ自立で排泄できるように、声かけをして促したり、その人に合った用品を利用することによって、気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンをつかんで、トイレ誘導を行い、リハビリパンツに変えて支援している。一部の利用者には、夜間だけポータブルトイレを利用し、排泄の自立に向けた支援もしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れ、水分摂取も十分に行ってる。また、毎日ラジオ体操をし、できるだけ自然排便できるようにしている。便秘が続く時はかかりつけ医による、投薬にて排便のコントロールをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人の希望を考慮しながら、気持ちよく入浴していただくように、職員の勤務時間の中で、入浴支援をしている。	入浴は一日おきで、夜間には対応していない。希望があれば、その都度対応できるようにしている。個別入浴にも対応しており、夏にはシャワー浴も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて対応しながら、昼寝は自由にされている。、昼寝されない方は、野外への散歩やゲームをしたり、家事参加をすることで、適度の運動となり、良い眠りができるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や用量については理解している。常に症状の変化の確認に努め、変化があれば、かかりつけ医に報告・指示等を受け、適切な投薬管理に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が楽しみたいことや役に立ちたいという気持ちを大切に、喜びや達成感を感じるために、見守りながら畑仕事や草取り、散歩等体調に合わせた支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	法事や兄弟会やその他行事への参加、花見や夏祭り等へ出かける機会を作り、支援している。	天気の良い日はいつも、車椅子の利用者も一緒に散歩をしている。遠方への外出は、毎月、事業計画で花見等を実施しているが、「買物をしたい」、「牛を見たい」等の近隣の外出の希望には、その都度対応している。	

グループホーム 中野方めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本的に家族が管理している。、一部の管理能力のある方は所持している。必要や希望に応じてお金が使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できるだけ自由に電話のやり取りをしている。、希望があれば手紙や年賀状等を家族等に送れるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はよしずで光をさえぎり、季節の花や置物で季節感を感じられるよう配慮し、居心地よく過ごせるよう、工夫をしている。。	田舎の民家の広い居間には、コの字形に配置されたソファが置かれている。そこに皆が集まり、座りながらの体操、カラオケ、対話等が楽しめるように工夫されている。利用者は居間での生活をいきいきとして楽しんでいる。全館、床暖房になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや食事のテーブルで、一人ひとりに合った場所で、気の合った同士の会話やゲームを楽しんだり、一人で本や新聞を読んだりできるように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを本人と相談しながら、好みの場所に置き、家族・知人からのプレゼントやホームで作った作品などを置くように配慮している。	居室の利用方法は利用者の希望に合わせ、好みの調度、作品、家族の写真等が飾られている。部屋の入口には見やすい大きな表札が工夫されて掛けられている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を理解し、わかりやすい説明、混乱しない物品等を置き、手すりの設置を増やし、杖などの使用で、安全に自立した生活ができるように工夫している。		